

1. 滋賀県環境保全基金の残高等

		金額 (単位:円)	備考
①	基金総額 (前年度末基金残高)	213,013,498	
	内訳	うち、国費相当額	106,506,749
		うち、地方負担相当額	106,506,749
		うち、負担附寄附金等	
②	基金運用益	323,136	
③	その他収入		
④	負担附寄附金等		
⑤	返納額		
⑥	基金執行額 (処分額)	81,996,186	内訳は下表のとおり
⑦	基金残高	131,340,448	(=①+②+③+④-⑤-⑥)
	内訳	うち、国費相当額	65,670,224
		うち、地方負担相当額	65,670,224
		うち、負担附寄附金等	

2. 保有割合

	次年度の基金類型	取崩型	金額 (単位:円)	備考
⑧	基金残高		131,340,448	
⑨	事業費 (次年度から終了年度までの見込額)		131,340,448	
⑩	保有割合		1.000	= (⑧/⑨)

保有割合の算定根拠
 運用型：運用益見込額÷事業費 (次年度見込額)
 取崩型：基金残高÷事業費 (次年度から終了年度までの見込額)

3. 国庫補助金相当額の国庫返還の可否 (運用型はすべて、取崩型は2. 保有割合が1以上の場合に限る。)

⑪	使用見込額を上回る資金の国庫補助金相当額の国庫返還の可否	否
⑫	返還可能額	
⑬	返還時期	
⑭	返還が困難である理由	終了年度までに全額取崩し予定のため。

4. 事業一覧

番号	事業名	事業費		備考	達成度	事業費 (次年度)	事業費 (終了まで)
		合計	一般財源等				
1	ムーブメント推進費	22,838,000	1,150,000	21,688,000	68%	20,000,000	57,146,448
2	びわ湖の日活動推進事業	2,203,000	0	2,203,000	56%	2,236,000	5,683,000
3	マザーレイクゴールズ (MLGs) 推進事業	7,687,405	0	7,687,405	62%	8,000,000	16,739,000
4	環境学習センター事業	3,334,175	0	3,334,175	51%	4,500,000	9,000,000
5	ごみゼロしが推進事業	10,608,399	1,800,000	8,808,399	58%	12,165,000	25,765,000
6	ラムサール条約推進事業	2,748,580	0	2,748,580	96%	165,000	330,000
7	琵琶湖流域におけるプラスチックごみの収支・起源と科学的情報発信に関する研究	18,454,612	0	18,454,612	80%	7,947,000	7,947,000
8	下水道を入口とした環境学習推進事業	8,997,725	0	8,997,725	73%	6,000,000	6,000,000
9	外来生物対策における地域連携促進事業	794,640	0	794,640	44%	500,000	1,000,000
10	MLGs学習動画制作事業	2,264,350	0	2,264,350	100%	0	0
11	ヨシ群落カルテ作成事業	5,015,300	0	5,015,300	85%	865,000	1,730,000
合計		84,946,186	2,950,000	81,996,186		62,378,000	131,340,448

5. 基金事業の目標に対する達成度

成果指標	滋賀県における温室効果ガス排出量の削減目標として、2013年度比19.0%削減 (2030年度：2013年度比23%減)	
成果実績	2013年度比24.5%削減	
目標値	2013年度比19.0%削減	
達成度	129%	

令和 6 年度 事業報告書

事業名	ムーブメント推進費	新規・継続区分	継続
事項名	地球温暖化防止活動推進センター運営事業	開始年度	平成14年度
担当部署	滋賀県総合企画部CO ₂ ネットゼロ推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

「地球温暖化対策の推進に関する法律」および「滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例」に基づき、2050年CO₂ネットゼロ社会を目指し、県民及び事業者がともに行動を実施する機運を醸成する。主に家庭部門において、住民や地域によるCO₂ネットゼロの取組を支援し、CO₂ネットゼロに対する「認知」向上を図る。
また、暮らしの中での省エネ行動や気候変動リスクの回避行動の定着を進め、「認知」から「行動」への変革を促すムーブメントを推進する。

<目標値>2030年目標（家庭部門）：2013年度比67%削減

2. 概要

2050年CO₂ネットゼロ社会を目指すためには、県民・事業者・行政が一体となり取組を進めるための基盤づくり（機運向上）と既に顕在化している気候変動への対処（適応策）が必要である。そのため、引き続き、「滋賀県地球温暖化防止活動推進センター」として指定する法人に対し、主に家庭向けの温暖化対策事業を委託し、節電・省エネ意識の向上を図るとともに暮らしの中での省エネ行動や気候変動リスクの回避行動の定着を進めていく。

3. 根拠法令等

- ・地球温暖化対策の推進に関する法律
- ・気候変動適応法
- ・滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

4. 実施内容等

<啓発等>（継続）

- ・地球温暖化防止活動推進員等による啓発活動
- ・うちエコ診断 111件
- ・夏季の省エネイベント開催 1回
- ・自由研究講座の開催 3講座
- ・啓発プログラム・資材の作成
- ・学習支援事業（学校等への出前講座） 196回

<人材育成>（継続）

- ・地球温暖化防止活動活動推進員研修 4回
- ・地球温暖化防止活動推進員グループ会議の支援

<しがCO₂ネットゼロムーブメントの推進>（継続）

- ・ムーブメントの推進支援
- ・情報発信
- ・まちづくりの推進

令和 6 年度 事業報告書

事業名	ムーブメント推進費	新規・継続区分	継続
事項名	地球温暖化防止活動推進センター運営事業	開始年度	平成14年度
担当部署	滋賀県総合企画部CO ₂ ネットゼロ推進課	終了年度	令和9年度

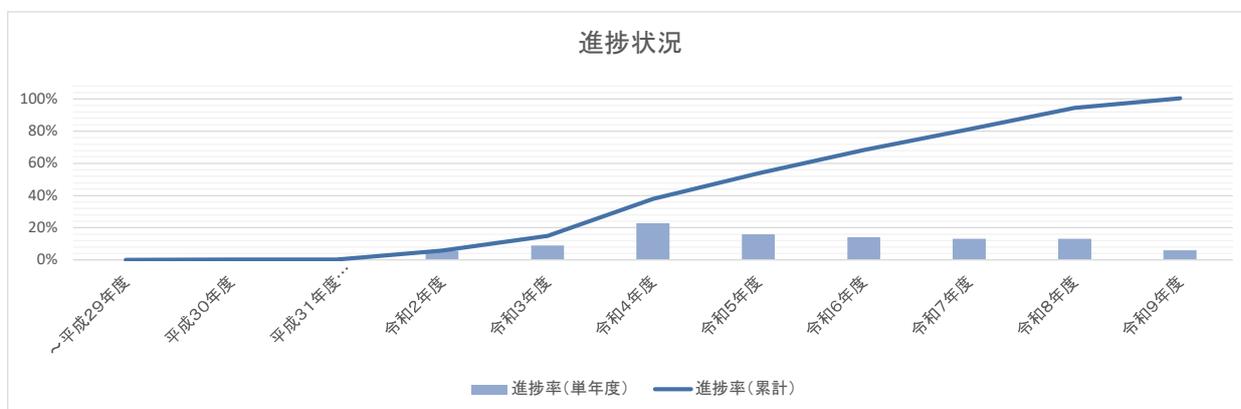
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	0			
講師旅費	0			
印刷製本費	0			
借料	0			
委託費	22,838,000	1,150,000	21,688,000	
負担金	0			
合計	22,838,000	1,150,000	21,688,000	(単位：円)

年度 (単位:千円)	~平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業費 (単年度)		246	197	8,568	12,490	31,925	20,000	21,688	20,000	20,000	17,147
事業費 (累計)		246	443	9,011	21,501	53,426	73,426	95,114	115,114	135,114	152,261

6. 進捗状況等

年度	~平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
進捗率 (単年度)		0%	0%	6%	9%	23%	16%	14%	13%	13%	6%
進捗率 (累計)	0%	0%	0%	6%	15%	38%	54%	68%	81%	94%	100%



令和 6 年度 事業報告書

事業名	びわ湖の日活動推進事業	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和 4 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	終了年度	令和 9 年度

1. 目的及び目標（値）

近年、琵琶湖における環境課題は多様化し、より多くの方が環境課題を自分ごととして捉え、自分にできる環境保全の取組を見つけ、行動していくことが求められていることから、「びわ湖の日」をきっかけとして、一人ひとりがそれぞれに合った方法で環境保全の取組を推進するための事業を実施する。

【目標（値）】

環境啓発イベント参加者数：2,000人

2. 概要

本県では、2015年に「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が施行され、琵琶湖が「国民的資産」と明記された。滋賀県では、1980年に「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」（琵琶湖条例）を施行し、1981年に施行1周年を記念して7月1日を「びわ湖の日」と決定した。現在においても7月1日前後には県内で湖岸や河川、道路などの清掃活動が行われるなど環境保全活動を象徴する日となっている。滋賀県の環境保全を象徴する「びわ湖の日」をきっかけに、今までの清掃活動等に加え、琵琶湖や滋賀の自然（森・川・里・湖）に触れる機会の創出等により環境保全活動を促進する。

3. 根拠法令等

滋賀県環境基本条例

4. 実施内容等

- 「びわ湖の日」環境啓発イベントの開催
琵琶湖の環境を自分ごとと捉え、それぞれに合った環境保全や琵琶湖との関わり方を見つける機会として、将来的な環境保全行動の促進に繋げるため、親子（若年層）を対象に、「びわ湖の日」をきっかけとした環境啓発イベントを令和6年6月29日（土）、30日（日）11:00～16:00にピエリ守山 ピエリコートで開催した。
当日来場者：約3,400名
- 環境啓発広報物の掲出
屋外掲出用横断幕を掲出することにより、JR琵琶湖線を利用する方々への啓発を実施した。
掲出期間：令和6年6月17日（月）～令和6年8月23日（金）

令和 6 年度 事業報告書

事業名	びわ湖の日活動推進事業	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和 4 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	終了年度	令和 9 年度

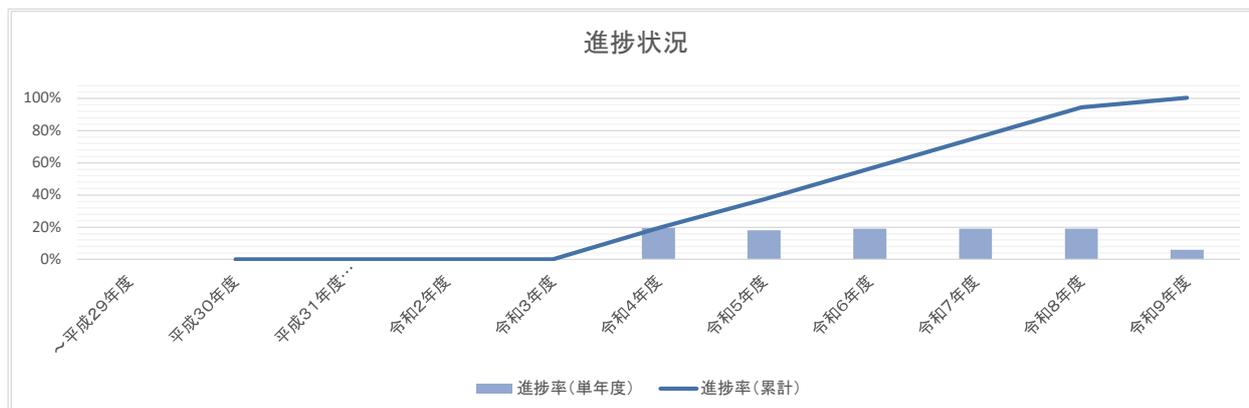
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	0	0	0	
講師旅費	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	
需要費	0	0	0	
役務費	66,000	0	66,000	横断幕の掲出
借料	0	0	0	
委託費	2,137,000	0	2,137,000	「びわ湖の日」 イベント委託
負担金	0	0	0	
合計	2,203,000	0	2,203,000	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
事業費 (単年度)		0	0	0	0	2,385	1,979	2,203	2,236	2,247	1,200
事業費 (累計)		0	0	0	0	2,385	4,364	6,567	8,803	11,050	12,250

6. 進捗状況等

年度	～平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
進捗率 (単年度)		0%	0%	0%	0%	19%	18%	19%	19%	19%	6%
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	0%	19%	37%	56%	75%	94%	100%



令和6年度 事業報告書

事業名	マザーレイクゴールズ (MLGs) 推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	MLGs啓発事業、webニュースサイト運営事業	開始年度	令和3年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標 (値)

琵琶湖保全に関わる個人・団体間のフラットでオープンなつながりのもと、地域における多様な環境保全活動が自発的に創出され、ひいては琵琶湖流域の自然環境やそれをとりまく暮らしの改善につながり、マザーレイクゴールズ (MLGs) ・SDGsの達成に寄与することを目的とする。

【事業目標】

- ・MLGsに関わる人々が集い、学び合う「MLGsみんなのBIWAKO会議/COP3」の開催
- ・MLGsに関するワークショップの開催 参加者 計200人以上
- ・MLGsの公式サイト運営 ページビュー数 40,000回
- ・環境とは違う切り口でMLGsを伝える動画コンテンツの発信

2. 概要

令和3年7月1日「びわ湖の日」40周年の日に、多様な主体（事業者、NPO、企業など）が琵琶湖環境保全活動の共通の目標とする「マザーレイクゴールズ (MLGs)」を策定した。それ以降、MLGsを琵琶湖環境保全に関する民官協働の取組の中心に掲げ、琵琶湖保全に関わる県民や様々な主体が、地域での活動を自発的に創出するよう、普及啓発に取り組んでいるところ。具体的には、県はMLGs推進委員会の事務局運営や13のゴールの評価とその共有等を行うことで様々な主体の取組を支えするとともに、県民のアクションを促すため、ワークショップ等の開催やニュースサイト・SNSの運営を行う。

3. 根拠法令等

琵琶湖の保全及び再生に関する法律(平成27年法律第75号)

4. 実施内容等

- (1) MLGsみんなのBIWAKO会議
MLGsに関わる人々が集い、ゴールの達成状況を確認しあい、今後に向けて学びあう「MLGsみんなのBIWAKO会議/COP3」を開催した。
- (2) ワークショップの開催
県民のアクションを促すため、ワークショップを開催した。参加者 計1,607人
- (3) 公式サイト「MLGs WEB」の運営
MLGsの周知、およびその取組の盛り上げを図るため、公式サイト「MLGs WEB」を運営した。

令和 6 年度 事業報告書

事業名	マザーレイクゴールズ (MLGs) 推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	MLGs啓発事業、webニュースサイト運営事業	開始年度	令和 3 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	終了年度	令和 9 年度

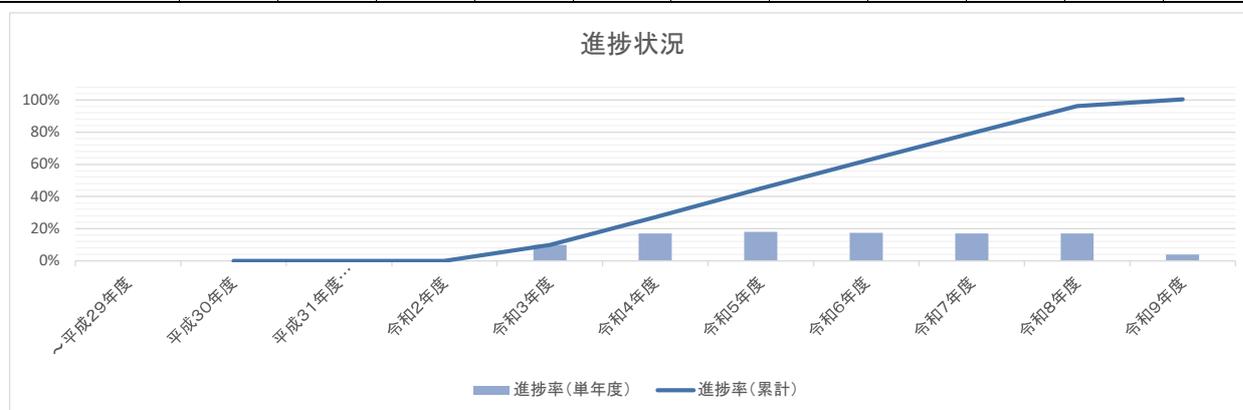
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	0	0	0	
講師旅費	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	
借料	0	0	0	
委託費	7,687,405	0	7,687,405	MLGsみんなのBIWAKO会議開催費用等
負担金	0	0	0	
合計	7,687,405	0	7,687,405	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
事業費 (単年度)		0	0	0	4,650	8,263	7,103	7,688	8,000	6,900	1,839
事業費 (累計)		0	0	0	4,650	12,913	20,016	27,704	35,704	42,604	44,443

6. 進捗状況等

年度	～平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
進捗率 (単年度)		0%	0%	0%	10%	17%	18%	17%	17%	17%	4%
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	10%	27%	45%	62%	79%	96%	100%



令和6年度 事業報告書

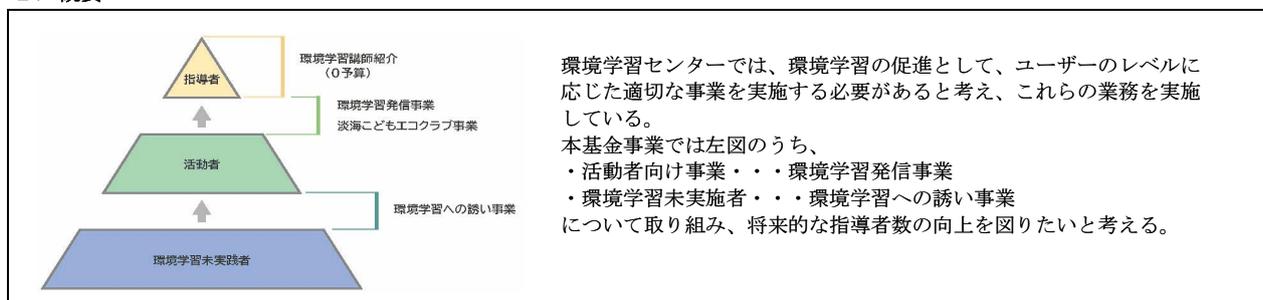
事業名	環境学習センター事業	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和3年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖博物館環境学習センター	終了年度	令和8年度

1. 目的及び目標（値）

【目的】地域を愛し、自ら行動できる人育てによる、「いのち」がつながる持続可能な社会づくりを基本目標として、啓発イベントや誰もが簡単に取り組める環境学習メニューの作成などを通して環境学習指導者となる人材を新たに発掘し、相互交流可能なwebサイトを活用して環境学習団体の活動をサポートすることで、次世代の環境学習の発展に寄与する。

【目標】指導者登録数の向上（新規登録者数70人（R3～R9通算））、環境学習の機会創出

2. 概要



3. 根拠法令等

滋賀県環境学習の推進に関する条例
滋賀県環境学習推進計画

4. 実施内容等

- 環境学習情報発信事業
令和3年に開設した環境学習情報発信サイト「エコロレーが」の運用を行い、滋賀県内で環境学習に取り組まれている活動者の人材登録や提供可能なプログラム等の環境学習情報の収集・発信を行った。また、貸出用具の利用者に対してアンケートを実施し、貸出用具の改善や拡充の参考にするとともに、効果的な広報の機会について調査を行った。
- 環境学習への誘い事業
 - 環境学習メニューの提案および備品貸出
環境学習を手軽に実施いただくため、個人・団体向けに環境学習を行うのに必要な用具を貸し出すための整備を行っている。令和6年度は、双眼鏡、生物顕微鏡を追加した。令和6年度は全体で53件の貸出を行った。
 - 環境学習参加のきっかけづくりのためのイベント実施
 - 「夏休み！自由研究応援展」 ・場所：草津市近鉄百貨店 ・会期：令和6年7月10日～7月16日
・内容：貸出用具の周知・普及のため、用具の紹介展示、地域環境活動団体の紹介、チョウの標本作りワークショップ（7月13・14日）を実施した。
 - 「びわこの日」関連イベントでのパネル展示 ・場所：ビバシティ平和堂 センタープラザ ・会期：令和6年6月25日～7月1日
・内容：ビバシティ平和堂で実施される「びわこの日」関連イベントで、滋賀県のヨシの魅力発信のため、ヨシに関するパネル展示を行った。
 - 滋賀県の魅力発信を目的とした「びわこのちから」パネル展示 ・場所：ビバシティ平和堂 センターモール ・会期：令和6年11月23・24日
・内容：琵琶湖を含む滋賀県の魅力を紹介するパネルと移動博物館キットを展示した。
 - 2024年度ギャラリー展「鉱物・化石展2024 大地に夢を掘る」 ・場所：滋賀県立琵琶湖博物館 企画展示室 ・会期：令和6年4月20日～6月2日
・内容：滋賀県やその周辺地域で鉱物や化石の採集活動を行う地域の方々で構成された団体の収集物とセンターの貸出用具の展示、鉱物ハンマーを使うワークショップ（5月4・5日）を実施した。
- 環境保全や環境学習に関わる個人・団体のかかわり強化のために、交流の機会を創出
 - 「2024年度 環境保全活動者交流会」 ・場所：積水樹脂株式会社滋賀工場 ・期日：令和6年8月21日
・内容：事業者の環境保全活動がより活発になることを目的として、事業所の事例紹介、専門家による講演、工場内のビオトープ見学を実施した。
 - 環境・ほっと・カフェ「水草を知ろう！—水草のしおり作り—」 ・場所：琵琶湖博物館 ・期日：令和6年10月19日
・内容：県内の活動者の交流とスキルアップを目的として、博物館の企画展示に合わせて、水草の採取、同定、しおり作りを行った。

令和 6 年度 事業報告書

事業名	環境学習センター事業	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和 3 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖博物館環境学習センター	終了年度	令和 8 年度

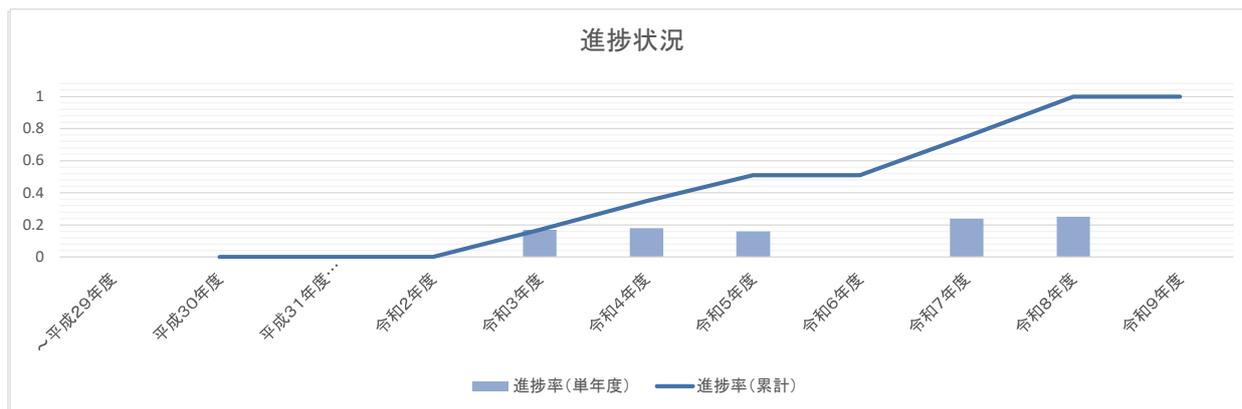
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
講師謝金	24,400		24,400	
職員旅費	21,020		21,020	
講師旅費	5,850		5,850	
印刷製本費	74,030		74,030	
借料	11,550		11,550	
委託費	979,000		979,000	
備品購入費	1,111,792		1,111,792	
役務費	481,115		481,115	
需用費	614,418		614,418	
負担金	11,000		11,000	
合計	3,334,175	0	3,334,175	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	平成 3 1 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
事業費 (単年度)					5,901	6,154	3,167	3,335	4,500	4,500	0
事業費 (累計)		0	0	0	5,901	12,055	15,222	18,557	23,057	27,557	27,557

6. 進捗状況等

年度	～平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	平成 3 1 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
進捗率 (単年度)					17%	18%	16%	16%	17%	16%	0%
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	17%	35%	51%	67%	84%	100%	100%



令和6年度 事業報告書

事業名	ごみゼロしが推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	買い物ごみ・食品ロス削減推進事業	開始年度	平成27年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課	終了年度	令和9年度

1. 目的及び目標（値）

プラスチックをはじめとする容器包装廃棄物や食品ロスの削減等、県民の循環型社会や地球温暖化に関する意識の向上と実践取組の促進。

目標値

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| ・マイバッグ持参率（レジ袋辞退率） | 85%以上 |
| ・食品ロス削減を認知して削減に取り組む消費者の割合 | 令和7年度までに80%以上（2020年は78.3%） |
| ・「三方よしフードエコ推奨店」の累計登録店舗数 | 令和7年度までに300店舗（年間新規登録30店舗） |

2. 概要

廃棄物削減のため、これまで県内で実施されるイベント等やキャンペーンを通じて啓発を実施してきたほか、事業者、県民団体、行政等で構成する「滋賀県買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会」において、「レジ袋削減の取組に関する協定」の締結など、小売店舗との連携した取組の検討や意見交換を行い、県民や事業者の取組の推進を図ってきた。

また、平成29年度から「三方よしフードエコ推奨店登録制度」の運用を開始し、食品ロス削減等の取組を実践する県内の店舗等を「三方よしフードエコ推奨店」として登録（令和6年度末時点で388店舗）することで、外食および食料品販売に係る食品ロス削減の取組を促進するとともに、県民等の意識啓発を行っている。

加えて、令和4年度から「しがプラスチック削減行動宣言」制度を開始し、プラスチックごみの発生抑制等を独自取組により推進することを事業者に宣言してもらい、この宣言を広く県民等へ周知することで、全県的な事業者取組への協力・拡大につなげることができた（令和6年度末時点で、宣言者数37者、466店舗）。

また、令和5年度から、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を踏まえ、プラスチックごみの削減を実践する「しがプラチャレンジの日」を毎月一日に設定し、具体的に取り組む内容を「プラチャレ通信」として配信することで県民等の意識醸成を図った。併せて、10月を「しがプラチャレンジ推進月間」とし、集中的な普及啓発を実施し、実践取組を推進している。

3. 根拠法令等

循環型社会形成推進基本法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律
食品ロス削減の推進に関する法律、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

令和6年度 事業報告書

事業名	ごみゼロしが推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	買い物ごみ・食品ロス削減推進事業	開始年度	平成27年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課	終了年度	令和9年度

4. 実施内容等

<買い物ごみ・食品ロス削減の推進>

- (1) プラスチックごみ対策
- ア 「しがプラスチックごみ削減行動宣言」の参加拡充（継続）：R6年度末宣言数37者、466店舗
- イ しがプラスチックチャレンジプロジェクト（継続）：毎月一日を「しがプラチャレンジの日」、10月を「しがプラチャレンジ推進月間」に設定し、プラスチックごみ削減の実践取組を支援するため、プラチャレ通信や動画等を作成し、SNS等を通じて普及啓発を実施
- (2) 食品ロス対策
- ア 三方よしフードエコ推奨店制度の周知・登録店舗の拡大等（継続）：累計登録店舗数 388店舗（33店舗増加）
- イ 未利用食品活用に資するフードドライブの普及・拡大（継続）：1町および1団体と連携フードドライブを実施（愛荘町、(株)Fast Fitness Japan）
- (3) プラスチックごみ、食品ロス共通対策
- ア プラスチックごみ・食品ロス削減等実践モデル事業補助金（継続）：2つのモデル事業を支援
- イ 滋賀県プラスチックごみ・食品ロス削減優良取組表彰（拡充）：5者を表彰
- ウ 製造者と県民等をつなぐサーキュラーエコノミー促進・啓発（継続）：ラジオ放送局と連携し、サーキュラーエコノミーに関する事業者の取組を小売店の利用者に啓発するイベントを草津市で実施
- エ 「滋賀県買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会」の運営・拡大（継続）
- オ 協働キャンペーンの実施（継続）：12事業者（61店舗）、3団体、県および19市町が実施
- カ ごみ3R出前講座（継続）：6回実施（栗東市ごみ減量リサイクル推進会議 他）
- キ 迅速・効果的な事業実施に資する県民意識の実態把握（継続）
- ク 滋賀グリーン活動ネットワーク(SGN)の支援（継続）※一般財源

令和6年度 事業報告書

事業名	ごみゼロしが推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	買い物ごみ・食品ロス削減推進事業	開始年度	平成27年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課	終了年度	令和9年度

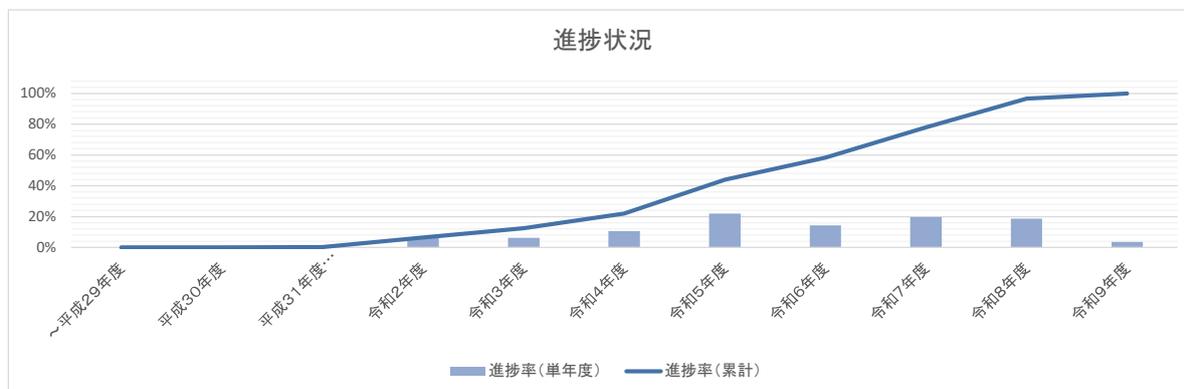
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	33,560		33,560	職員旅費、高速道路使用料
講師旅費	90,000		90,000	協議会委員謝礼、有識者謝礼 協議会委員旅費、有識者旅費
印刷製本費	267,111		267,111	啓発ポスター等の作成
需用費	16,830		16,830	
委託費	8,099,799		8,099,799	普及啓発プロジェクト、タイアップ イベント、HP維持管理、県民意識調査
負担金	2,101,099	1,800,000	301,099	団体等の活動に対する支援
合計	10,608,399	1,800,000	8,808,399	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業費 (単年度)		95	75	3,565	3,787	6,477	13,051	8,809	12,165	11,500	2,100
事業費 (累計)	100	195	270	3,835	7,622	14,099	27,150	35,959	48,124	59,624	61,724

6. 進捗状況等

年度	～平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
進捗率 (単年度)		0%	0%	6%	6%	10%	22%	14%	20%	19%	3%
進捗率 (累計)	0%	0%	0%	6%	12%	22%	44%	58%	78%	97%	100%



令和6年度 事業報告書

事業名	ラムサール条約推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	ラムサール条約推進事業	開始年度	令和4年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課	終了年度	令和8年度

1. 目的及び目標（値）

琵琶湖および西之湖は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」、通称「ラムサール条約」でラムサール条約湿地に登録されている（琵琶湖：平成5年登録、西之湖：平成20年拡大登録）。ラムサール条約では、「保全・再生」、「賢明な利用」、「交流・学習」の推進が掲げられている。環境保全の核となる次世代リーダーの育成を目的とする子ども環境学習交流事業や愛鳥思想を育むことを目的とする愛鳥観察会等を通してラムサール条約湿地としての琵琶湖の普及推進を行う。

〈目標値〉

子ども環境リーダーの育成 10人/年

愛鳥観察会 5回/年

2. 概要

琵琶湖および西之湖は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」、通称「ラムサール条約」でラムサール条約湿地に登録されている。ラムサール条約では、「保全・再生」、「賢明な利用」、「交流・学習」の推進が掲げられている。

環境保全の持続的な推進のためには、将来の環境リーダーとなる人材の育成が必要である。そのような能力は、自ら体験し調べたことを、県の代表として県内外では発表することにより飛躍的に高まる。小学生10名程度を対象に事業を継続して実施し、広い世代にわたる層として、将来の環境リーダーを育成する。

また、水鳥をはじめとする鳥類の観察会や講演会を通して愛鳥思想の普及を図るとともに、ラムサール条約登録湿地としての琵琶湖を普及推進していく。

3. 根拠法令等

特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）

4. 実施内容等

（1）子ども環境学習交流事業
小学校5,6年生8名を対象に、以下のようなプログラムを通して将来の環境リーダーを育成した。

- ・琵琶湖に関する学習会（3回）
- ・先輩リーダーとの交流会
- ・県外での発表・交流（鳥取県米子市、島根県出雲市（宍道湖・中海））
- ・まとめの報告会

（2）愛鳥観察会の実施

- 愛鳥モデル校を主な対象に、水鳥をはじめとする鳥類の観察会や講演会を開催した。
- ・5回実施（甲南第三小学校、常盤小学校、田根小学校、朝日小学校、桜谷小学校）

令和 6 年度 事業報告書

事業名	ラムサール条約推進事業	新規・継続区分	継続
事項名	ラムサール条約推進事業	開始年度	令和 4 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課	終了年度	令和 8 年度

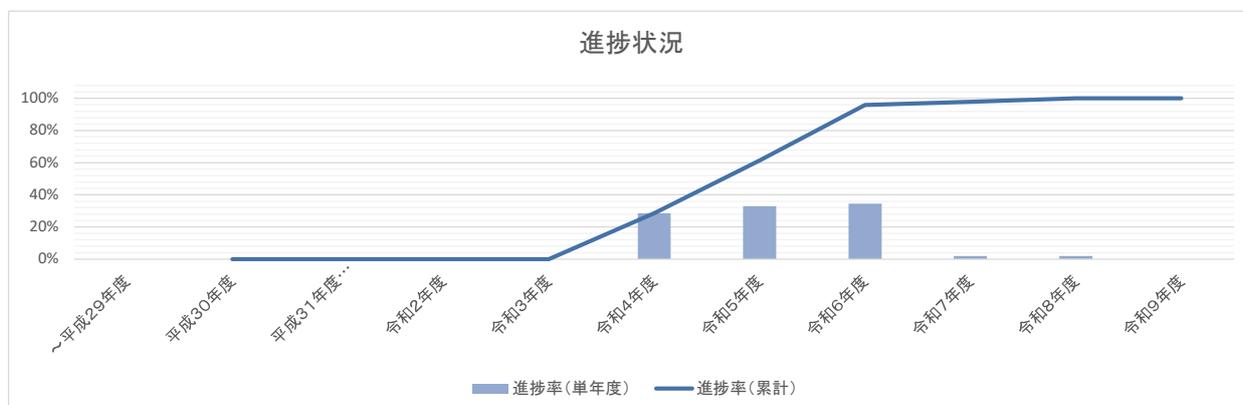
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	44,530		44,530	環境学習・愛鳥観察会随伴
講師旅費	9,950		9,950	愛鳥観察会講師旅費
印刷製本費	0			
借料	0			
委託費	2,694,100		2,694,100	環境学習事業委託費 2,630,100 愛鳥観察会講師謝金 64,000
負担金	0			
合計	2,748,580	0	2,748,580	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
事業費 (単年度)						2,282	2,621	2,749	165	165	0
事業費 (累計)		0	0	0	0	2,282	4,903	7,652	7,817	7,982	7,982

6. 進捗状況等

年度	～平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
進捗率 (単年度)		0%	0%	0%	0%	29%	33%	34%	2%	2%	0%
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	0%	29%	61%	96%	98%	100%	100%



令和 6 年度 事業報告書

事業名	琵琶湖流域におけるプラスチックごみの収支・起源と科学的情報発信に関する研究	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和 5 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	終了年度	令和 7 年度

1. 目的及び目標（値）

<p>世界的にプラスチックごみ問題が大きな社会的課題となっている中、琵琶湖流域におけるプラスチックごみの収支・起源と科学的情報発信に関する研究を行い、研究成果をプラスチックごみの発生抑制に向けた効果的な啓発施策等につなげていくことで県民の意識向上を図り、本県における循環共生型社会の実現に寄与する。</p> <p>【令和 5 年度目標】 ワークショップ開催 4 回程度</p> <p>【令和 6 年度目標】 認識調査Webアンケート 1 回</p>

2. 概要

<p>滋賀県内の河川の大部分が県内の農地や市街地等を経由して琵琶湖へ流入する地勢から、本県での社会生活や事業活動によって流出するプラスチックごみが琵琶湖に蓄積するなどの懸念がある。また、マイクロプラスチックも検出されている状況であるが、プラスチックごみの発生源および河川や琵琶湖への流出入に関する知見が十分ではない。</p> <p>そこで本事業では、琵琶湖流域におけるプラスチックの収支や起源の解明に関する調査研究を行うことでプラスチック流出対策が必要な地域特性や種類を把握するとともに、プラスチックごみに対する人々の意識変容を促すための科学的な情報発信のあり方について研究を行う。</p> <p>この研究成果に基づく、プラスチックごみの発生抑制に向けた効果的な啓発施策等につなげていく。</p>

3. 根拠法令等

<p>プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 琵琶湖の保全及び再生に関する法律 湖沼水質保全特別措置法</p>

4. 実施内容等

<p>本事業は 3 つのサブテーマにより構成しており、それぞれ次のとおり実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 陸域・河川におけるプラスチック量の把握とモデル解析<ul style="list-style-type: none">・改良した陸域水物質循環モデルを用いて、プラスチックの発生・流下過程の解析を行った。・プラスチックの発生源や（河川を通じた）琵琶湖への流入量を把握するため、市街地排水路 2 地点、農業排水路 1 地点、河川 2 地点においてマクロプラスチック、マイクロプラスチックの調査を実施した。2. 湖内におけるプラスチック量の把握<ul style="list-style-type: none">・琵琶湖内のマイクロプラスチックの状況を把握するため、北湖の沿岸部、湖心、水深別、および南湖における調査を実施した。3. プラスチックごみに対する意識変容を促す科学的情報発信のあり方調査<ul style="list-style-type: none">・多様な主体が考えるプラスチックごみ問題に対する知識・認識・イメージ・リスク認知等を把握するため、Webアンケートを実施した（1 回）。

令和6年度 事業報告書

事業名	琵琶湖流域におけるプラスチックごみの収支・起源と科学的情報発信に関する研究	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和5年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部環境政策課	終了年度	令和7年度

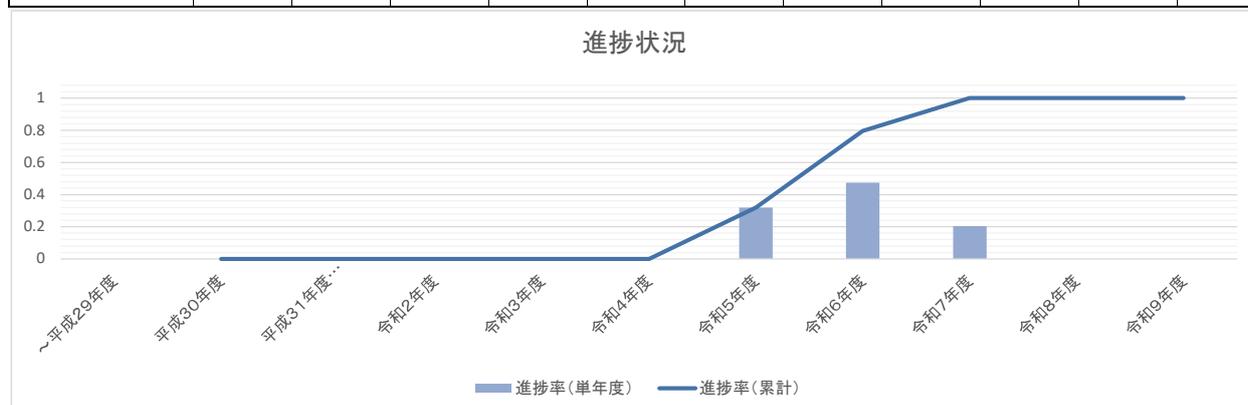
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	107,928		107,928	
講師旅費	0		0	
備品購入費	0		0	
その他需用費	84,364		84,364	
印刷製本費	0		0	
役務費	220		220	
委託費	18,255,600		18,255,600	
負担金	6,500		6,500	
合計	18,454,612	0	18,454,612	(単位：円)

年度(単位:千円)	～平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業費(単年度)							12,471	18,455	7,947		
事業費(累計)		0	0	0	0	0	12,471	30,926	38,873	38,873	38,873

6. 進捗状況等

年度	～平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
進捗率(単年度)							32%	47%	20%		
進捗率(累計)		0%	0%	0%	0%	0%	32%	80%	100%	100%	100%



令和 6 年度 事業報告書

事業名	下水道を入口とした環境学習推進事業	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和 5 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部下水道課	終了年度	令和 7 年度

1. 目的及び目標（値）

草津市にある矢橋帰帆島には、下水道の浄化センターと帰帆島公園、下水道の啓発拠点としての淡海環境プラザが設置されており、帰帆島公園には年間50万人程度の来園者がある。

展示の充実や環境学習プランの整備等により、水環境を中心に多様な環境課題の発信につながる魅力的な施設になることを目指すとともに、島内の各施設を巡りながら環境が学べる島としていく。

【目標】

- ・環境学習ツアー・・・年間通じて2回程度開催
- ・クイズラリー参加者・・・100名/年

2. 概要

水環境を中心に多様な環境課題が学べる展示物の作成、島一帯での環境学習プランの整備、環境学習ツアー等を行うことで、下水道を入口に環境についてより深く学べるシステムを構築し、環境保全に係る普及啓発を推進する。
R5年度は一部展示物の作成、環境学習プランの作成、環境学習プランの企画・開催を行う。
R6年度はより多くの環境課題が学べるよう展示物の作成、クイズラリー・スタンプラリーの整備を行うことで、遊びを通じて学ぶことの楽しさを伝えるとともに、環境問題への意識向上に貢献する。

3. 根拠法令等

環境教育等促進法
滋賀県環境学習の推進に関する条例

4. 実施内容等

矢橋帰帆島を下水道を入り口として広く深く環境について学べる島とするため、以下の内容を実施。

- (1) 淡海環境プラザの展示の充実
下水道、水環境、資源循環、温暖化対策等、環境全般を学べるパネルや体験仕器を製作。
- (2) 淡海環境プラザ内クイズラリーの整備
(1)で作成した展示物を見て回りながらクイズに答えていくクイズラリーを整備。
- (3) 島全体を活用したスタンプラリーの整備
島内の回遊性を高めるよう島内各所にラリーポイントを設置。
- (4) 環境学習ツアーの開催
公園と連携し、(1)の展示やR5年度に作成した学習プランを活用した環境学習ツアーを開催。

令和 6 年度 事業報告書

事業名	下水道を入口とした環境学習推進事業	新規・継続区分	継続
事項名		開始年度	令和 5 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部下水道課	終了年度	令和 7 年度

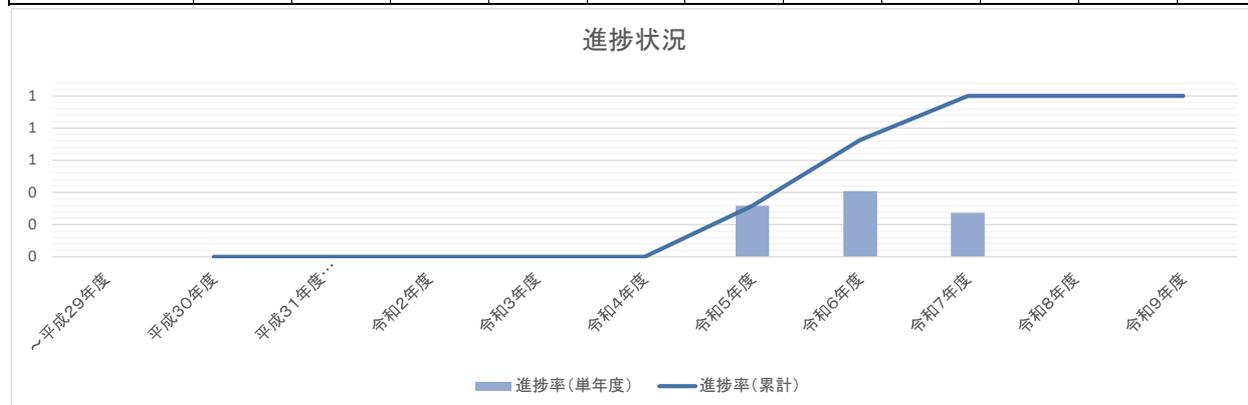
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	0			
講師旅費	0			
印刷製本費	0			
借料	0			
委託費	8,997,725		8,997,725	
負担金	0			
合計	8,997,725	0	8,997,725	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	平成 3 1 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
事業費 (単年度)							6,958	8,998	6,000		
事業費 (累計)		0	0	0	0	0	6,958	15,956	21,956	21,956	21,956

6. 進捗状況等

年度	～平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	平成 3 1 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
進捗率 (単年度)							32%	41%	27%		
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	0%	0%	32%	73%	100%	100%	100%



令和 6 年度 事業報告書

事業名	外来生物対策における地域連携促進事業	新規・継続区分	新規
事項名	外来生物対策における地域連携促進事業	開始年度	令和 6 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課	終了年度	令和 8 年度

1. 目的及び目標（値）

県民等が外来生物に対する理解を深め、正しい知識をもって向き合うことを促し、地域の環境保全活動を推進するための環境づくりを行うことを目的とする。

〈目標値〉

- ・アカミミガメの引き取り支援の体制を整える拠点数：県内 3 箇所

2. 概要

地域の環境保全活動において、在来種の保全と侵略的外来生物の駆除は表裏一体の取組である。アカミミガメについては、野外に広く生息するとともにペットとしても定着しており、捕獲後には安楽死させることが必要になるものの、その対応は物理的にも心理的にも負担が大きく、地域の環境保全活動のネックになっている。

このため、地域の環境保全活動が円滑に進むよう引き取りに係る支援を行う。また、県民の外来生物に対する知識や理解を深めていくためには、普及啓発が不可欠であり、地域での取組において求められている情報を収集し把握する。

(1) アカミミガメの引き取り支援

地域における環境保全の取組が円滑に行われるよう、捕獲されたアカミミガメの適切な処分のための引き取りを行う。

(2) アンケート等の実施

今後地域や県民のニーズ・疑問に応える情報を発信するにあたり必要な、地域の環境保全活動における外来生物への対応に係る課題等について、地域団体等へのアンケートや聞き取り調査を行う。

3. 根拠法令等

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律

4. 実施内容等

(1) アカミミガメの捕獲・処分に係る講習会の実施

県内市町や地域団体等を対象にアカミミガメの捕獲・処分に係る講習会を 1 回、以下の内容で開催した。

- ・アカミミガメ関連の法令等および処分方法の説明
- ・県内外の駆除活動団体および活動事例の紹介
- ・適切な処分方法に関する研修

(2) アカミミガメの引き取り支援

モデル試行として県内 2 市に冷凍庫を貸し付け、行政によるアカミミガメの引き取りを支援した。

(3) アンケート等の実施

県内市町や地域団体等へのアンケートや聞き取り調査を行い、アカミミガメの県内各市町向けの参考資料と、地域団体向けの啓発資料を作成した。

令和 6 年度 事業報告書

事業名	外来生物対策における地域連携促進事業	新規・継続区分	新規
事項名	外来生物対策における地域連携促進事業	開始年度	令和 6 年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課	終了年度	令和 8 年度

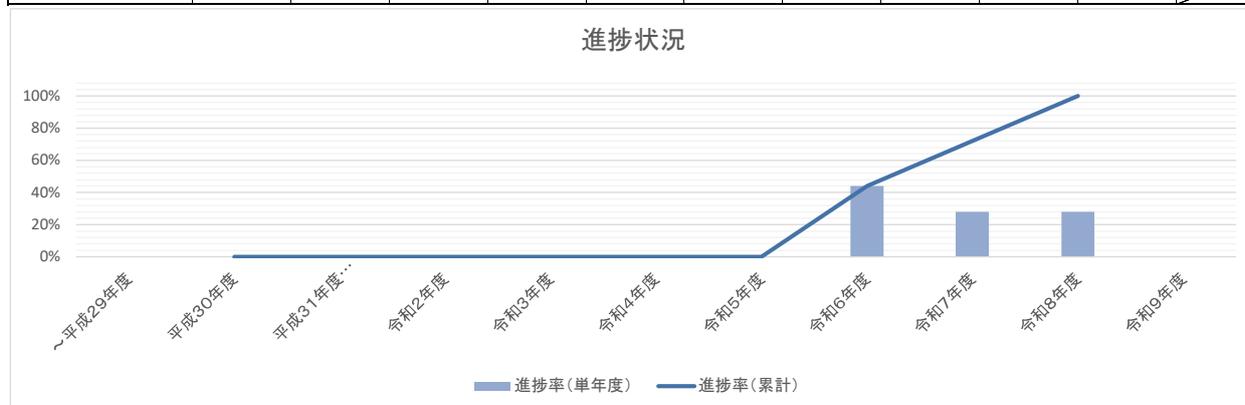
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	0			
講師旅費	0			
印刷製本費	0			
借料	0			
委託費	794,640		794,640	委託料一式 699,600円 安楽死用冷蔵庫3台 95,040円
負担金	0			
合計	794,640	0	794,640	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	平成 3 1 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
事業費 (単年度)								795	500	500	
事業費 (累計)		0	0	0	0	0	0	795	1,295	1,795	

6. 進捗状況等

年度	～平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	平成 3 1 年度 (令和元年度)	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
進捗率 (単年度)								44%	28%	28%	
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	0%	0%	0%	44%	72%	100%	



令和6年度 事業報告書

事業名	MLGs学習動画制作事業	新規・継続区分	新規
事項名	MLGs学習動画制作	開始年度	令和6年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	終了年度	令和6年度

1. 目的及び目標（値）

琵琶湖保全に関わる個人・団体間のフラットでオープンなつながりのもと、地域における多様な環境保全活動が自発的に創出され、ひいては琵琶湖流域の自然環境やそれをとりまく暮らしの改善につながり、マザーレイクゴールズ（MLGs）・SDGsの達成に寄与することを目的とする。

【事業目標】

- ・令和6年12月までにMLGs学習動画を制作すること
- ・MLGs学習動画が学校現場において活用されること

2. 概要

令和3年7月1日「びわ湖の日」40周年の日に、多様な主体（事業者、NPO、企業など）が琵琶湖環境保全活動の共通の目標とする「マザーレイクゴールズ（MLGs）」を策定した。それ以降、MLGsを琵琶湖環境保全に関する官民協働の取組の中心に掲げ、琵琶湖保全に関わる県民や様々な主体が、地域での活動を自発的に創出するよう、普及啓発に取り組んでいるところ。主に小学校高学年を対象としたMLGsを解説する動画を制作し、県内小中学校などで活用することで、MLGsの普及や琵琶湖の環境保全に関する啓発を行う。

3. 根拠法令等

琵琶湖の保全及び再生に関する法律(平成27年法律第75号)

4. 実施内容等

主に小学校高学年を対象としたMLGsを解説する動画を制作し、県内小中学校などで活用することで、MLGsの普及や琵琶湖の環境保全に関する啓発を行った。
令和6年12月に制作した動画を公開し、県内教育委員会および総合教育センターへの情報周知と動画活用の依頼を行うとともに、MLGs伝える講習会等の機会を通じて動画の活用方法を賛同者や関心のある教育関係者へレクチャーした。
動画公開後、県内の小学校等から動画利用の申込みがあり、それぞれの学校において動画を活用した環境学習の授業が実施された。

令和6年度 事業報告書

事業名	MLGs学習動画制作事業	新規・継続区分	新規
事項名	MLGs学習動画制作	開始年度	令和6年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	終了年度	令和6年度

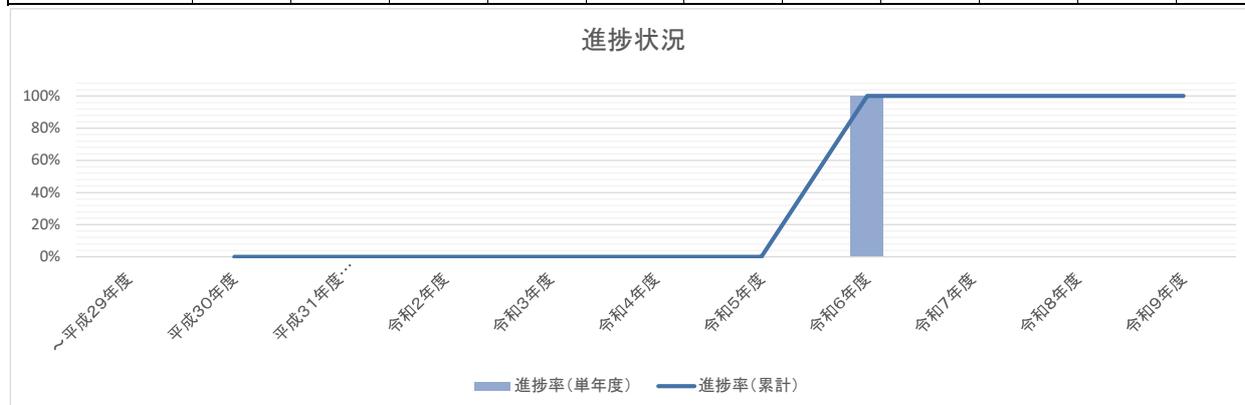
5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	0	0	0	
講師旅費	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	
借料	0	0	0	
委託費	2,264,350	0	2,264,350	
負担金	0	0	0	
合計	2,264,350	0	2,264,350	(単位：円)

年度 (単位:千円)	～平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業費 (単年度)		0	0	0	0	0	0	2,265	0	0	0
事業費 (累計)		0	0	0	0	0	0	2,265	2,265	2,265	2,265

6. 進捗状況等

年度	～平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
進捗率 (単年度)		0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	100%	100%	100%



令和6年度 事業報告書

事業名	ヨシ群落カルテ作成事業	新規・継続区分	新規
事項名	ヨシ群落現況調査事業、ヨシ群落保全活動団体調査	開始年度	令和6年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	終了年度	令和8年度

1. 目的及び目標（値）

自然環境保護活動に興味を持たれている企業やボランティア団体等に、地域のヨシ群落の現状や地域で保護活動に関わっておられる方々について知っていただくことで、地域と企業やボランティアが協力したヨシ群落の保全活動を広げていくことを目的とする。

【事業目標】

ヨシ群落現況調査の実施：450ha
ヨシ群落保全活動団体調査の実施：10団体

2. 概要

琵琶湖岸や内湖岸に広がるヨシ群落は、湖国滋賀県の原風景であり、野生生物のすみかになる等、自然環境の保全について多くの機能を持っている。このヨシ群落を保全するために滋賀県では平成4年に滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例を制定した。

現在、地域のヨシ群落保全活動の担い手が減少している一方で企業等の関心が高まっており、地域住民の意思を尊重しつつ、地域と企業等が協力してヨシ群落の保全を進めていくことが重要となっている。

地域と企業等のマッチングを促進するために、地域のヨシ群落の現状や保全団体について広く知っていただくことを目的として、それらの情報をまとめたヨシ群落のカルテの作成・発信を行う。

3. 根拠法令等

滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例（平成4年3月30日滋賀県条例第17号）
ヨシ群落保全基本計画（令和3年12月 滋賀県）

4. 実施内容等

【令和6年度実績】

- 空中写真を利用して、琵琶湖岸および内湖岸のヨシ群落の面積や現況を調査した。
ヨシ群落現況調査の実施：450ha
- 地域でヨシ群落の保全活動に取り組んでおられる団体を把握するために調査した。
ヨシ群落保全活動団体調査の実施：62団体（対象91団体のうち回答のあった団体数）

令和7年度以降（1）、（2）の情報を基に団体への聞き取りを行いヨシ群落カルテ（ヨシ群落info）を作成、発信する。

令和6年度 事業報告書

事業名	ヨシ群落カルテ作成事業	新規・継続区分	新規
事項名	ヨシ群落現況調査事業、ヨシ群落保全活動団体調査	開始年度	令和6年度
担当部署	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	終了年度	令和8年度

5. 事業費等

	合計	一般財源等	基金充当額	備考
職員旅費	0			
講師旅費	0			
印刷製本費	0			
借料	0			
委託費	5,015,300		5,015,300	
負担金	0			
合計	5,015,300	0	5,015,300	(単位:円)

年度 (単位:千円)	~平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
事業費 (単年度)								5,016	865	865	
事業費 (累計)		0	0	0	0	0	0	5,016	5,881	6,746	6,746

6. 進捗状況等

年度	~平成29年度	平成30年度	平成31年度 (令和元年度)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
進捗率 (単年度)								85%	8%	7%	
進捗率 (累計)		0%	0%	0%	0%	0%	0%	85%	93%	100%	100%

